

障害者の活躍の場の拡大 ～「共生社会」実現への包括支援事業～

- 1 現状と課題
- 茨城県県西地域には4つの特別支援学校があるが、生徒等の学校卒業後の主体的・継続的な学びの場の充実に向けて、教育・学習面の条件整備が課題となっている。
 - 障害者の社会参加と自立を実現するために、地域社会づくりや支援体制の基礎・基盤を構築する人材を育成するとともに、これまでのセンター事業で培ったネットワーク(社会福祉協議会、障害者就業・生活支援センター等)を有機的に繋ぎ、就業へのサポート(研修等)や生涯学習活動を支援する必要がある。
- 2 期待される効果
- 障害者支援ボランティアの育成を図り、障害者への「支援者の育成」と「学びの場の提供」を両輪で進めることで、障害者を総合的に支援する体制を構築することができる。
 - 支援ボランティアの習熟度に合わせて、障害者就業支援センターや地域の支援団体と連携し、実践活動の場を提供することで、活動を活性化したり取組効果を高めたりするなど、特別支援学校卒業生等の社会参加をサポートすることができる。

3 事業実践方法

(1) 概要(目的)

学校卒業後の障害者の生涯にわたる主体的・継続的な学びの場の充実に向けて、教育・学習面の条件整備を行うことで、障害者の社会参加や自立の実現を目指す。

- 障害者の学習支援ができる人材の育成
- 障害者の生涯学習活動を支援できる人材の育成
- 各特別支援学校での支援活動の充実
- 県西地域の就業支援センターでのボランティア活動を支える人材の育成
- 地域の障害者支援団体への参加・参画並びに活動の活性化

(2) 対象者

県民

(3) 委員構成

<令和5年度>

所属	役職等
障害者就業・生活支援センターなかま	就業支援ワーカー
障害者就業・生活支援センター慈光倶楽部	就業支援ワーカー
NPO みんなの広場	理事長
でこぼこ凸凹キッズ親の会	会長
でこぼこ凸凹キッズ親の会	副会長
NPO ジョインアス Koga seed	代表

<令和6年度>

所属	役職等
障害者就業・生活支援センターなかま	就業支援ワーカー
障害者就業・生活支援センター慈光倶楽部	就業支援ワーカー
就労支援サービスイマココ筑西	所長
茨城県発達障害者支援センターあい	センター長
結城市社会福祉課障害福祉係	主任
県西教育事務所	主任社会教育主事

(4) 具体的な取組内容

① 会議・交流会等

■ 令和5年度

期日	内容	出席者等
令和5年 6月22日(木)	○障害者支援事業委員会① →「支援者像の明確化と必要な支援について」 ・自立を目指す障害者を支援対象とする ・障害者本人の意思を尊重し、支援方法を考える	・実行委員、講師、協力者
8月3日(木)	○障害者支援事業委員会② →「地域とのネットワークの強化と連携体制や協力体制の拡充について」 ・基幹相談支援センターや地域生活支援拠点との協力 ・定期的な合同ケース会議や地域ケア会議を開催	・実行委員、講師、協力者
令和6年 2月15日(木)	○障害者支援事業委員会③ →「障害者就業支援センターでの実践活動と地域活動を継続する為の方法について」 ・ボランティアの負担を軽減する仕組みの構築 ・ボランティア同士のネットワーク強化と交流の場の設置	・実行委員、講師、協力者

<実施にあたり、工夫した点や留意した点等>

- 課題や目的を明確にし、支援者として必要な能力を効果的に身につけられる講座を企画した。
- 地域課題や、障害者の現状をより把握するために、就業支援ワーカーや、障害がある家族をもつ当事者でもあるNPO 団体等を委員として迎えた。

■ 令和6年度

期日	内容	出席者等
令和6年 6月28日(金)	○障害者支援事業委員会④ →「障害者支援の方向について」 ・対象となる障害者の定義を明確にする ・支援の方法(ボランティアなのか・講座開催なのか)	・実行委員、講師、協力者
9月25日(水)	○障害者支援事業委員会⑤ →「福祉施設へのボランティア講師派遣について」 ・各福祉施設への講座ニーズ調査 ・派遣する上での注意事項、配慮事項	・実行委員、講師、協力者
令和7年 2月5日(水)	○障害者支援事業委員会⑥ →「講師派遣講座実施報告」 ・講師と事業所間での直接の打合せの重要性 ・講座の継続的な実施(講座のリスト化)を目指す	・実行委員、講師、協力者

<実施にあたり、工夫した点や留意した点等>

- 障害者支援の定義を明確化し、生涯学習センターとしてできることを検討した。
- 地域課題や障害者の現状をより把握するために、就業支援ワーカーや行政実務で障害者支援を行っている方を委員として迎えた。



【障害者支援事業委員会の様子】



【障害者支援事業委員会の様子】



【障害者支援事業委員会の様子】

② 研修・ワークショップ・講座等

■ 令和5年度

期日	内容	対象者
令和5年 9月3日(日)	○障害特性に合わせた支援についての研修会 →「生涯を見据えた障害者へのかかわり方」 ・ライフステージに応じた支援の理解と実践 ・地域社会との連携による包括的な支援体制の構築	・令和3・4年度障害者サポーター育成事業 受講生 32人
9月10日(日)	○障害特性に合わせた支援(Ⅰ)ワークショップ →「演習による理解で支援技術を高める」 ・ケーススタディによる支援方法の検討や支援計画 ・ロールプレイによる支援現場の再現と支援技術の実践	・令和3・4年度障害者サポーター育成事業 受講生 31人
9月17日(日)	○障害特性に合わせた支援(Ⅱ)ワークショップ →「障害者の社会参加や自立へのサポートとは」 ・買い物、金銭管理等、生活スキル向上への支援技術 ・地域住民や企業との交流イベントの企画・運営演習	・令和3・4年度障害者サポーター育成事業 受講生 29人

<実施にあたり、工夫した点や留意した点等>

- これまでの障害者サポーター育成事業参加者から募集を募ることで、基本的知識を習得しており、また本事業趣旨を理解し、地域貢献活動に意欲ある方々を対象に講座を行った。
- 基礎知識、意欲・意識の高い人材に研修を行う事で、実践活動での効果と継続率を高めた。



【R5年度 障害者へのかかわり方講座】



【R5年度 障害特性に合わせた支援(Ⅰ)】



【R5年度 障害特性に合わせた支援(Ⅱ)】

③ 実践

■ 令和5年度

期日	内容	対象者
令和5年 9月27日(水)	○働く上で知っておきたい基本ルール →「就業規則について学ぼう」 ・就業規則の基本と働く上での権利・義務 ・職場でのコミュニケーションとトラブル対応	・受講生 7人 ・障害のある一般就労で現在働いている方 17人
11月23日(木)	○古河市社会福祉協議会「第2回ふくしまつり」でのボランティア →「誰もが参加できるインクルーシブな社会づくり」 ・福祉体験コーナーの運営サポート ・対話や交流により、福祉への理解を深める機会を提供	・受講生 5人 ・NPO ジョインアス Koga seed
令和6年 2月11日(日)	○日常生活に役立つ金銭管理の基本 →「お金の使い方について」 ・金融トラブルを防ぐための知識 ・詐欺や悪質商法から身を守る方法	・受講生 5人 ・障害のある一般就労で現在働いている方 10人

<実施にあたり、改善した点や留意した点等>

- 障害者サポーター育成事業に参加される方々には、ご家族に障害のある方がいる場合が多く、家族へのケアの優先度が高くなるため、地域貢献への参加率が低くなる傾向が見受けられた。
- 先進的に活動を行っているNPOやボランティア団体は、それぞれの目的に沿って活動しており、団体同士の連携や協働が少ないので、団体間のネットワーク化や連携強化を図れるよう、他団体の取組について情報提供を行った。

- 就業している障害者の課題として、消費者金融やスマートフォンを利用してトラブルなどに巻き込まれる場合が多いので、講座のテーマとした。



【R5年度 第2回ふくし祭りでのボランティア活動】



【R5年度 お金の使い方講座】

■ 令和6年度

期日	内容	対象者
令和6年 9月18日(水)	○「お薬講座」への講師派遣 →「かかりつけ薬剤師・薬局を持ちましょう」 ・かかりつけ薬局(薬剤師)があることの利点 ・薬の飲み方と、過剰摂取の危険性について	・就労支援サービスイマココ 入所者 32人 ・講師 ホーム薬局 藤井宗一 氏
11月7日(木)	○「編み物講座」への講師派遣 →「編み物をはじめよう」 ・編み方の基本について ・かぎ編みを実践する	・障がい者多機能型事業所たまご 入所者・職員 3人 ・講師 下妻市ボランティアの方
令和7年 1月20日(月)	○「結城市事業所連絡会」での報告 →「生涯学習センターの講師派遣の取組について」 ・講師派遣活動の報告とPR ・スマイルステーションの紹介	・結城市内の福祉事業所 33 団体

<実施にあたり、工夫した点や留意した点等>

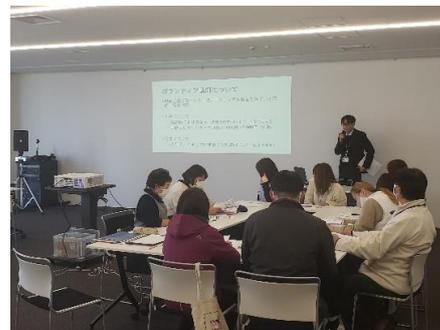
- 福祉施設に講座のニーズ調査を行い、それをもとにボランティア講師派遣を行った。
- 入所者が講座を受ける機会は限られているため、専門家などの外部講師を招くことで、意図的に学びの機会を提供した。



【R6年度 イマココ筑西でのお薬講座】



【R6年度 編み物講座】



【R6年度 結城市内事業所連絡会】

<プログラム全体の検証>

○ 成果

- ・ 実行委員として、就業支援ワーカーや行政実務で障害者支援を行っている方、障害がある家族をもつ当事者でもある NPO 団体の方を委員に迎えることで、地域課題や障害者の現状をより把握することができた。
- ・ 福祉施設に講座のニーズ調査を行い、それをもとにボランティア講師派遣を行うことができた。

○ 課題及び今後の展望

- ・ 先進的に活動を行っている NPO やボランティア団体は、それぞれの目的に沿って活動しており、団体同士の連携や協働が少ないので、意図的にネットワーク化や連携強化を図る必要がある。
- ・ 基礎知識、意欲・意識の高い人材を対象に研修を行うことで、実践活動での効果と継続率を高めていく。
- ・ 令和7年度も、生活スキル向上について福祉施設等のニーズを把握し、ボランティア講師派遣の取組を継続して行っていく。